

TOKYO KNIT×「超十代」、TOKYO KNIT×「障がい者アート」ファッションショー TOKYO LOVE KNIT を開催!!

Z世代に人気のタレント6名がコラボレーションしたオリジナルアイテムを
身に纏いファッションショーに登場！
超十代メンバーがニットの可能性や、魅力について語る

日時：2024年2月16日（金）17:00～19:00
会場：TRUNK(HOTEL) CAT STREET MORI（〒150-0001東京都渋谷区神宮前5-31）



東京ニットファッション工業組合（東京都墨田区、理事長：深澤隆夫、以下TKF）は、株式会社超十代（本社：東京都渋谷区、代表：平藤真治）と連携し、未来を担うZ世代を発信起点としたTOKYO KNITの魅力を全世代にアピールする施策を行ってきました。その施策の集大成として、TOKYO KNITと「超十代」、そして障がい者アートとコラボレーションしたファッションショー「TOKYO LOVE KNIT」を2024年2月16日（金）TRUNK(HOTEL) CAT STREET MORIにて開催しました。

TOKYO KNITは、前年度（2022年）までBtoB領域、特に国内外のアパレルブランドへの訴求に力を入れてきましたが、2023年度は未来を担うZ世代にTOKYO KNITの魅力を全世代にアピールする施策として、Z世代がTOKYO KNITの高品質な製品に触れ、感じてもらい、自ら発信するプロジェクトを展開してきました。その施策の集大成として、超十代を代表するZ世代のタレント、植村颯太さん、内山優花さん、沢田京海（トメイトウ）さん、本望あやかさん、実熊瑠璃さん、りゅうとさんの6名が、TOKYO KNIT認証企業4社とコラボレーション。ファッションショーでは自身でデザインした衣装を身に纏い登場し、今回のコラボレーションに関して、本望さんは「ニットという編み物や毛糸のイメージでしたが、私が使ったベロアやメッシュも実はニットで、種類が多くすごく悩みましたが、無限の可能性も感じました。」と語りました。

<トークショー> 超十代タレント、丸和繊維工業株式会社 取締役 深澤信敬、株式会社沼尻テキスタイル研究所 国際研究員 内海雅俊

Q. 超十代のメンバーの皆さんに今回のコラボレーションの衣装のテーマやこだわったポイントなど伺えますか？

実熊さん：私は“自分らしい”をテーマに、好きなベージュカラーでオーバーオールを今回製作しました。アクセントにボア素材を使っているのですが、ミニポケットもつけて可愛いデザインにしました。

内山さん：“大人っぽさ”をテーマに、ただ黒でまとめるのではなく、ジャケットは袖のボタンが取り外せて2way仕様になっていて、スカートも抜け感があったりと、デザインにもこだわりました。

植村さん：可愛いコーディネートにしたいと思って、もともと好きな黒とグレーの配色で、ポイントにオレンジを入れたオーバーオールのベルトにしました。サイズもオーバーサイズで、ポケットも大きくして動きやすく可愛くしました！

本望さん：私は昔から憧れていたアニメのアイドルのキャラクターをイメージしたお洋服を作っていただきました。アイドルっぽさを出すように、何枚もフリルを重ねたりバランスを整えるのが大変でしたが、憧れの存在に近づけたみたいで嬉しいです。

りゅうとさん：僕はスーパーマンのようなマントをデザインしました。マントにはスリット部分にボタンがついているのもポイントで、さらに中に着ているシースルーのトップスも普段女性のイメージがあると思うのですが、今回挑戦したく作っていただきました。

沢田さん：自由という言葉が好きで、それを表すために、トップスのリボンを外すとシャツの後ろが自由の花言葉を持つお花がデザインされていて、縛られている状態から自由になる！という想いを表現しました。

Q. 今回のコラボレーションでの商品開発の中で大変だったことや、商品開発の中で楽しかったこと、本プロジェクトを通しての気付いたことなど伺えますか？

内山さん：作っていく中で金具や生地やボタンの種類がすごく多く、普段から優柔不断なので選ぶのが大変でした。

本望さん：素材にすごく悩んで、ニットという編み物や毛糸のイメージでしたが、私が使ったベロアやメッシュも実はニットで、種類が多くすごく悩みましたが、無限の可能性も感じました。最後は一番好きな質感を選んで、理想に近いものを作っていただきました。

<トークショー> 超十代タレント、丸和繊維工業株式会社 取締役 深澤信敬、株式会社沼尻テキスタイル研究所 国際研究員 内海雅俊

Q. 今日みなさんが作ったお洋服を誰かにきてほしいとかありますか？

本望さん：憧れのアニメのアイドルの衣装を再現したので、やはりヲタクのみんなに着てほしいですね！

実熊さん：ファンの子に着てほしいですね。ファンの子は私がこういうカラーが好きなのも知っていて、すでにこういうベージュカラーを着たことある子もまだ挑戦したことない子も着やすいと思うので、みんなに着てほしいです。

Q. 今回の超十代のみなさんと取り組みされていかがでしたか？そして、Z世代の皆さんに期待することを教えていただけますか？

深澤さん：これまでは業界向けに技術力やニットの良さを伝えていましたが、業界だけでなく、より消費者に近いZ世代の色々な発信力がある方々と一緒にできたらと思い今回ご依頼しました。服作りの楽しさを知ってほしくて、実際に要望を聞いてから形にしていって出来上がる喜びを知って、ファッション業界を目指す子が増えたらと思いました。

内海さん：みなさんSNSでの発信を多くしていたので、個人的な性格や好みがツールを通して事前に見ることができたので結構作り込みが一緒にできたなと思いました。それぞれのみなさんの好みにあわせて、こういう物が好きかなとイメージしながらできました。発信力も強く、素直に謙虚に色々聞いてくれたので、ファッションがすごい楽しいんだよというを今後も発信してほしいですね。

「TOKYO LOVE KNIT」では、障がいのあるアーティスト2名のアート作品をTKF認証企業6社が洋服に落とし込み、Z世代のモデル6名（男性2名、女性4名）がファッションショーで披露しました。

今回のプロジェクトに参加した、アーティストのカミジョウミカさんと柴田鋭一さんもステージに登壇し、カミジョウミカさんは「いつもは平面の作品ですが、今日は服としてデザインが立体的にになったことが嬉しいです。いつかこの商品が販売されたいいな」という夢ができました。」とコメントしました。

さらに、「TOKYO LOVE KNIT」ではプロトタイプとして、既成のアート作品を洋服に落とし込んでいますが、今後はオリジナルブランドを立ち上げ、オーダーによる書き下ろしのアート作品と1点モノの洋服をセットにした今までに無い新しい障がい者アートの価値を提供していきます。



【カミジョウミカさん Mika Kamijo】

19歳時に、常染色体劣性遺伝性疾患のため入院していた病院のスタッフの顔をデフォルメし独学で描き始める。描いているテーマは「カラフルな空想の世界」と「夢の世界」。

【柴田 鋭一さん Eiichi Shibata】

1970年生まれ。柴田さんにとってはもはや描く行為自体が気持ちの良いこと、そして落ち着かない時に自らを安定させるものとなった。永遠の謎である“せっけんのせ”を25年以上描き続けるベテランは、海外のアートフェアでも注目され、ニューヨークで行われた初個展で作品を完売させた。そんな快挙にも本人はどく吹く風、至ってマイペース。言葉遊びを楽しみながら、仲間や職員、皆から人気者。



<報道関係者様からのお問い合わせ先>

TOKYO LOVE KNIT PR事務局（株式会社TANK内） TEL:03-6427-6270 FAX:03-5469-0680
甲斐（070-3815-6246）/ kai@tankpr.jp 山本（090-9222-2024）/ yamamoto@tankpr.jp

■開催概要

タイトル : TOKYO LOVE KNIT
日時 : 2024年2月16日（金） 17:00～19:00 【報道受付 16:30※カメラ位置はご来場順にご案内させていただきます。
会場 : TRUNK(HOTEL) CAT STREET MORI (〒150-0001東京都渋谷区神宮前5-31)
登壇者 : 内山優花、植村颯太、沢田京海トメイトウ、本望あやか、実熊瑠璃、りゅうと

■TOKYO KNITについて

東京にしか創れないニットの未来を世界に発信する、それが私たちのミッションです。TOKYO KNITは、東京の東部、墨田区本所界隈を中心に事業を展開しているニットファッション製造事業者が、次なる時代のファッション産業のあり方を目指す、新しいものづくりのプラットフォームです。

東京のニット産業の歴史は江戸時代に遡ります。鎖国状態にあった日本は、必要な物資の多くを国内生産に頼る必要があり、戦国時代の終焉とともに訪れた泰平のなかで、武士は刀を捨て、新たな仕事に従事することを迫られました。江戸東部に住んでいた武士は、手編みにより靴下や下着といったメリヤス製品を作るようになり、それが徐々に進化し、明治時代の殖産興業政策により、この地はニット産業発祥の地となったのです。

戦後、ファッション文化の中心となった東京には、多くのデザイナーがアトリエを構え、流通、小売業者も急増。さらに1970年代以降には、東京発のデザインが世界でも高く評価されるようになり、東京のニットメーカーはカジュアルからハイファッションまで、幅広いクリエイションに携わるようになりました。東京のニット産業には、歴史と経験に基づく確かな技術力とともに、世界を刺激し続ける東京ファッション独自の創造力を支えるフレキシブルな思想が根付いているのです。 (<https://www.tokyoknit.jp/>)

■東京ニットファッション工業組合

ニット生地ならびに製品の製造業を営む中小企業の経営の改善発展、安定、合理化を図ることを目的とし、昭和24年に中小企業等協同組合法のもと、正式に法人格を持つ団体として発足。昭和61年に現在の名称である「東京ニットファッション工業組合」（TKF）と改称、現在約170社の組合員を擁する組織。 (<https://www.tkf.or.jp/>)

* 本事業は、東京都中小企業団体中央会が2023年度に実施する【中小企業組合等新戦略支援事業に係る特別支援「デジタル技術活用による業界活性化プロジェクト」】^{※1}の助成を受けて、TKFと株式会社ジェイアール東日本企画によるコンソーシアムで取り組んでいる東京のニット産業の活性化を目的とした「デジタル マーケティングプロジェクト」です。

^{※1} 中小企業組合等新戦略支援事業に係る特別支援「デジタル技術活用による業界活性化プロジェクト」

東京都中小企業団体中央会が実施する、ポストコロナを見据えてデジタル技術等を活用した新たな手法による団体等の業界活性化の取組を支援し、先進事例として広く発信できる事業創出を強力に後押しして成功に導くことにより、他の団体等が追従して取り組む潮流を創出するとともに、さらなる業界活性化を目指すプロジェクトです。

<報道関係者様からのお問い合わせ先>

TOKYO LOVE KNIT PR事務局（株式会社TANK内） TEL:03-6427-6270 FAX:03-5469-0680
甲斐（070-3815-6246） / kai@tankpr.jp 山本（090-9222-2024） / yamamoto@tankpr.jp